

No.619 (改題579号)
2023年
3月8日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

ひょうご

碑

65 物語

相生市と赤穂市の境の高取峠には国道250号線が走っているが、急カーブの連続で現在でも難所である。その頂上にこの碑が建てられている。元禄14年(1701年)

3月19日の午前4時ごろ、赤穂城を目指す2丁の早駕籠がこの高取峠を突っ走っていった。江戸城松之廊下で突発した赤穂城主・浅野内匠頭の殿中刃傷を知らせる第1の使者、早水藤左衛門と菅野三平を乗せた駕籠だ。この早駕籠は、江戸から155里(約600km)を昼夜兼行でわずか4日半で江戸の事件を家老・大石内蔵助に知らせ、使命を果たした。電話もメールもない当

(相生市・赤穂市) 時は、たんに情報を伝達するだけならば飛脚が一番早かったと言われている。しかし、人を移動させるのなら早駕籠だった。馬に乗ればもっと早いように思われるが、早駕籠なら各宿場に人足が用意されており、昼夜を問わず走ることができ、馬はどの宿場でも用意されているとは限らず、その上、当時の夜は漆黒で、馬は走れなかったと言。早駕籠1丁には6人の人足が必要とされるため、



相生市と赤穂市の境にある高取峠の頂上に、松之廊下での忍傷事件を知らせる早かごを再現した像が立つ

江戸から赤穂まで、約70回の乗り継ぎをしたと言われているので計840人の人足が携わったことになる。

【メモ】JR赤穂線・坂越駅から徒歩約30分。

忠臣蔵早駕籠の碑

大軍拡・大增税を許すな 市民集会&デモに250人 2・23 神戸



集会の開催を待っていたかのように主催者の予想を上回る250人が参加し満席となった会場=2月23日、神戸市立婦人会館

岸田政権が「防衛力の抜本的強化」の名のもとに昨年12月、国会審議も経ることなく閣議決定した「安保関連3文書」。敵基地攻撃能力の保有を含め、軍事費の大幅増額(5年間で43兆円)などを盛り込み、戦後の安保政策の大転換を図るもので、日本が再び「戦争国家」への道を踏み出そうとするものだ。この動きを許さず、大軍拡反対の声をあげようと、40を超える市民団体でつくる「市民デモHYOGO」は2月23日、神戸市中央区の市立婦人会館で「ストップ大軍拡!市民集会&デモinHYOGO」を開き、250人が参加した。

集会のメインは、山本昭宏さん(神戸外大准教授)による「市民の論議と国家の論議」国防政策の転換を巡って」と題した講演と、清水早子さん(ミサイル基地いらぬ宮古島住民連絡会共同代表)による現地からのオンライン報告。

講演は、防衛政策の大転換となる岸田内閣による軍拡をめぐる世論調査では賛否が拮抗していることをどうとらえ、それについていくのかという問題の提起から始まり、その問題の考察への視座

として戦後民主主義の再検討をとりあげ、平和主義や直接的民主主義などの価値観が形成されてきた源流を振り返りながら、いま、その中から何を受け継いでいくべきかを考えた。

その克服のためには、改めて私たちの日常を足元から問い直し、そこから論理や言葉を紡いでいくことの大切さが語られた。オンラインでの清水さんの宮古島からの報告は、多数の写真や図を使い、ミサイルも配備された自衛隊基地によって軍事要塞化された南西諸島の生々しい実態とそれに低抗する住民の運動を熱く伝えた。



集会後は元町商店街等をデモ行進して「ストップ大軍拡」をアピールした=2月23日、神戸市

憲法を生かす北区の会が総会 「非武装中立」テーマの講演も

憲法を生かす北区の会(山崎貢代表)は2月12日、北区文化センターで総会を開き、昨年2022年に取り組んだ活動を議案書をもとに振り返った。コロナ禍で思うように動けない中、小城智子さんを招いて北区の戦争の跡を学んだ第49回憲法を考える集い、医療制度改革反対や安倍元首相の国葬反対を訴えたスタンディング、そして多くの人の来場を得たペシャワール会・PMS中村哲写真展など、北区の会の取り組みの成果を確認した。ニュース「カッケンひろば」も71号から74号まで4回発行し、集いの案内や参議院選挙の支援の呼びかけも行った。



非武装中立について津野公男さんの講演を元に考えた=2月12日、神戸市北区

2023年は、引き続きき月1回の幹事会を継続し様々な取り組みを話し合いながら進めていくこと、軍備増強反対や憲法改悪反対を街頭で訴えること、9回目となる写真展を計画し成功させることなどを今後の方針として確認し合った。総会後は、津野公男さんから「今こそ非武装中立を」のテーマで講演を受けた。改憲策動と軍拡の動きの大きな2つの内容の話がされた。日本国憲法は、悲惨な戦争を2度と繰り返さないという世界の思いが生み出した憲法である。非武装憲法を持つ国として、それを世界に提起するのが日本に与えられた任務である。軍拡に対しては、戦争を企てるものは政治支配層であり、命を落とすのは人民であることを肝に銘じて、「軍拡には軍拡ではなく、戦争を企てる支配層を許さない国家、さらに国境を超える連帯運動が必要である」との訴えを聞いた。(渡辺)

水脈

あと3週間 余りで統一自治体選挙。各陣営では選挙への追い込み

選挙を前にした今の世の空気に、どうにも違和感を覚えてしまう▼支持率低迷がつづく政権が、日本が戦争に巻き込まれかねない、戦後の安保政策の大転換を閣議だけで決定して間もない時期である。しかも国会は会期中だ。この政治状況の中で、高橋純子氏(朝日新聞編集委員)の言葉を借りれば、「大転換をしてこの静寂」なのである。原発政策についても、政権は「原発依存社会」への回帰の大転換を決めた。いずれも日本社会を大きく変える政策転換である。こうした政治課題をめぐる攻防の状況はどうだろうか。政治的論議、もっと言えば、思想に立脚する論理的対決があまりにも「静寂」すぎないか、この思いが違和感となる。政権の横暴に対決すべき野党、そして「民」の声はどんなのかという自問に駆られる▼岸田首相の、口先だけの、信念も根拠もない、空虚な言葉の世界に世の中みんなが引きずり込まれてはいないはずだ。「民」の声を顕在化させ、「民」の声を力に変えなければならぬ。「民」が「主役」である「民主主義」を「民」の論理と力によって回復させなければならぬ。4月の選挙は地方からのための場だ。

# 郵便局 非正規の2人提訴の控訴審開始 「タスキ裁判を応援する会」結成



「応援する会」結成総会で決意を述べる原告の船山良成さん(左)と藤井秀和さん=1月28日

「郵便屋さん」が着けている蛍光タスキ(写真下)。「視認性を高め、事務社員に配られたが、ハ

ンドルやミラーに引っ掛けて危ないと着用する人は少なかった。神戸市の郵便局では2017年着任の局長が着用を強制。「効果は疑問、かえって危険」とタスキを着けなかった2人のアソシエイト社員(無期・非正規)は人事評価で時給10円をカットされ、作業能率評価手当の支給も止められた。年間の実損は1人約32万円強だ。

2人は直ちに控訴。「正社員5人、非正規社員4人がタスキを着けずに働いているが不利はない。原告だけが不利を科せられるのは平等原則に反する」と新証拠をつぎつけて審理に臨んでいる。



控訴審は1月26日に開かれ、40人の支援者が傍聴。その後の報告集会で「タスキ裁判を応援する会」を結成した。応援する会は、「正規・非正規の差別待遇を調査し、情報発信・交流をし、原告を物心両面にわたって応援する」などを目的としている。非正規差別と闘う原告の船山さん、藤井さんを支援しよう。次回控訴審は3月16日(木)14時から大阪高裁82号法廷で。(塩浜)

若狭湾で老朽原発が稼働中 福井県の若狭湾には、廃炉(解体)が決まったものも含めて15基もの原発が林立している。世界でも屈指の「原発集中地帯」だ。中でも高浜原発1、2号機、美浜原発3号機は40年超えの老朽原発で、その高浜原発と神戸市中央区は直線距離で96kmしかなく、事故を起こせば最短2時間で放射性プルーム(雲)が神戸に到達する」と井戸・前兵庫県知事は公表した(2014年)。

「郵便屋さん」が着けている蛍光タスキ(写真下)。「視認性を高め、事務社員に配られたが、ハ

## 岸田政権による「原発依存 社会」への回帰を許すな

「事故が起きてからでは遅い」 2月6日に大地震が起きたトルコにも日本の三菱重工が原発を輸出しようとしていたが、1月28日の加古川の集会で話してもらった守田敏也さんが何度もトルコに足を運び、「原発など建設す

べきではない」と現地で講演活動を行い、完全に契約が破綻したことは本当に良かったのではないかと思う。 福島原発事故から今年3月11日で丸12年が経つ。原発事故避難者の菅野みずえさん(福島県浪江町から兵庫県に避難中)は、「今日は私のこと。でも、明日はあなたのこと。そういう状態で原発は動いている。事故が起きて初めて『自分のこと』になったのでは遅い」と訴えている。

岸田首相の頭は「経済界」の利益のみか 岸田首相は、就任時(2021年10月)では「原発の新増設や建て替えは想定しない」としていた。その舌の根も乾かない昨年8月に「GX(グリーン・トランスフォーメーション)会議(脱炭素社会)づくりを目的としたもので自分が議長」に提起して「脱炭素のためには原発の活用が必要」と誘引し、昨年12月にはわずか4ヶ月で、「原発の新設・増設と再稼働、新型炉の開発、核融合炉の開発」という結論を出した。

連合、三菱・日立等重工業グループなどの「原子力マフィア」が岸田首相を動かしていることは間違いない。原発新設には1基(100万kw)1兆円を超える。岸田首相のねらいは、「原則40年」ルールを撤廃し無制限に原発を稼働するというところに他ならない。

「核燃料サイクル」の中核とされた「高速増殖炉もんじゅ(2015年廃止)」には1兆1300億円(朝日新聞18年5月公表)、青森県に建設中の「使用済み核燃料を再利用する」再処理工場」に至っては、25回も完成延期し、すでに3兆円(朝日新聞20年7月)

も税金を投入。さらに、使用済み核燃料の行き先(北海道の2町)調査だけで町には20億円を交付した。これだけ多くの税金を自然エネルギー開発に投入していたら、日本は「再生エネルギー先進国」になっていたろう。 関電は、若狭湾の原発再稼働の条件に「県外へ」という空約束を繰り返したり、電気料金を選流し幹部だけが3億円以上も懐に入れているという企業倫理のかけらもない企業だ。

若者が裁判に立ち上がる 2011年3月の福島原発事故でたくさん

## 私の主張

「事故が起きてからでは遅い」 2月6日に大地震が起きたトルコにも日本の三菱重工が原発を輸出しようとしていたが、1月28日の加古川の集会で話してもらった守田敏也さんが何度もトルコに足を運び、「原発など建設す

べきではない」と現地で講演活動を行い、完全に契約が破綻したことは本当に良かったのではないかと思う。 福島原発事故から今年3月11日で丸12年が経つ。原発事故避難者の菅野みずえさん(福島県浪江町から兵庫県に避難中)は、「今日は私のこと。でも、明日はあなたのこと。そういう状態で原発は動いている。事故が起きて初めて『自分のこと』になったのでは遅い」と訴えている。

連合、三菱・日立等重工業グループなどの「原子力マフィア」が岸田首相を動かしていることは間違いない。原発新設には1基(100万kw)1兆円を超える。岸田首相のねらいは、「原則40年」ルールを撤廃し無制限に原発を稼働するというところに他ならない。

「核燃料サイクル」の中核とされた「高速増殖炉もんじゅ(2015年廃止)」には1兆1300億円(朝日新聞18年5月公表)、青森県に建設中の「使用済み核燃料を再利用する」再処理工場」に至っては、25回も完成延期し、すでに3兆円(朝日新聞20年7月)

も税金を投入。さらに、使用済み核燃料の行き先(北海道の2町)調査だけで町には20億円を交付した。これだけ多くの税金を自然エネルギー開発に投入していたら、日本は「再生エネルギー先進国」になっていたろう。 関電は、若狭湾の原発再稼働の条件に「県外へ」という空約束を繰り返したり、電気料金を選流し幹部だけが3億円以上も懐に入れているという企業倫理のかけらもない企業だ。

若者が裁判に立ち上がる 2011年3月の福島原発事故でたくさん

老朽原発うごかすな! 関電包囲大集会 ●3月21日(火・祝) 13時 ※集会後、梅田までデモ(関電本店-高浜原発)リレーデモスタート

さかい大起と市政を考える集い ①3月19日(日)14時~15時30分 ●北須磨文化センター ●応援ゲスト 小山乃里子さん ②3月21日(火・祝)14時~15時30分 ●須磨区文化センター ●応援ゲスト 鳴海愛さん(医師)

## 改憲の動きをウォッチング

憲法審めぐる立憲野党と改憲4党の攻防 2月16日の今国会で初めて開かれた衆院憲法審の幹事懇談会、立憲の中川正春氏(野党筆頭幹事)は改めてCM規制などの議論を提案。維新の会などは昨秋の臨時国会で論点整理を行った緊急事態案などの議論再開を要求し対立。テーマについては引き続き協議することになったが、今国会初となる憲法審を3月2日に開催することで合意した。

これまで憲法審開催の協議は与野党の合意で進められてきたが、改憲4党は昨年の通常国会では「予算委員会中は開催しない」という慣例があったにもかかわらず強引に開催。予算委員会中の2月8日、維新の会などが憲法審開催の協議を一方的に進めようとしたため、立憲、共産などは抗議し、幹事会懇談会を欠席した。これに対し、維新の藤田幹事長は記者会見で「立憲が憲法審査会の審議を拒んだ場合、両党の国会での共闘関係を解消する(時事)とけん制し、中川氏はCM規制を「改

馬場代表も党会場で「立憲の対応について」また、さびり癖が出てきている。議論できないとなると、議論できない関係に暗雲が垂れてくる(同)と脅しをかけている。 国民投票法(改憲手続法)は、議員立法でありながら参院で18項目にわたる付帯決議が採択され、欠陥法といわれてきた(2007年)。その後一部改定されているが、最低投票率設定の検討や公務員の運動規制、有料意見広告が野放しなど、根本的な欠陥を残したままになっている。

国民投票法は、投票の14日前から投票・棄権を呼びかけるテレビ・ラジオなどの有料広告を禁止しているが、それ以外は野放しのままである。 テレビのCMが世論に与える影響は大きい。資力の豊富な改憲勢力の大キャンペーンによって世論がゆがめられ、民意が正確に反映されない恐れがあるため、立憲は「憲法下でも緊急時の備えは想定されている」として、参院の緊急集会などを挙げている(時事)

国民投票法は、投票の14日前から投票・棄権を呼びかけるテレビ・ラジオなどの有料広告を禁止しているが、それ以外は野放しのままである。 テレビのCMが世論に与える影響は大きい。資力の豊富な改憲勢力の大キャンペーンによって世論がゆがめられ、民意が正確に反映されない恐れがあるため、立憲は「憲法下でも緊急時の備えは想定されている」として、参院の緊急集会などを挙げている(時事)

国民投票法は、投票の14日前から投票・棄権を呼びかけるテレビ・ラジオなどの有料広告を禁止しているが、それ以外は野放しのままである。 テレビのCMが世論に与える影響は大きい。資力の豊富な改憲勢力の大キャンペーンによって世論がゆがめられ、民意が正確に反映されない恐れがあるため、立憲は「憲法下でも緊急時の備えは想定されている」として、参院の緊急集会などを挙げている(時事)

国民投票法は、投票の14日前から投票・棄権を呼びかけるテレビ・ラジオなどの有料広告を禁止しているが、それ以外は野放しのままである。 テレビのCMが世論に与える影響は大きい。資力の豊富な改憲勢力の大キャンペーンによって世論がゆがめられ、民意が正確に反映されない恐れがあるため、立憲は「憲法下でも緊急時の備えは想定されている」として、参院の緊急集会などを挙げている(時事)

国民投票法は、投票の14日前から投票・棄権を呼びかけるテレビ・ラジオなどの有料広告を禁止しているが、それ以外は野放しのままである。 テレビのCMが世論に与える影響は大きい。資力の豊富な改憲勢力の大キャンペーンによって世論がゆがめられ、民意が正確に反映されない恐れがあるため、立憲は「憲法下でも緊急時の備えは想定されている」として、参院の緊急集会などを挙げている(時事)

統一自治体選・選対からの報告③

人権を中心に据え活動

芦屋市議選 山口みさえ

「このままでは、あかん芦屋の未来がある」、「あなたと一緒につくりたい芦屋の未来がある」をスローガンに山口みさえさんは6期目の当選をめざし活動している。



議事が終了するたびに市内の集会所で小規模な報告会を重ねてきた山口みさえさん

芦屋市内の放課後児童クラブは半分が民営化されたが、民間業者は当初、指導員をボランティアで募集していた。浄水場の夜間業務の民間委託では、ベテラン職員が不在となったことで、「あやや」という事態が発生。煤塵(ほいじん)処理では、業者が処理に使用する薬の種

たかいになることは必ずだ。非正規労働者の運動、解放運動、アスベスト家族の会などで積極的に活

動してきた山口みさえさんは「人権」を中心に据え、仲間とともに6選をめざす活動に力がこもる。

「要は福祉です」

芦屋市議選 要コウタ

務した西宮すなご医療福祉センターを退職。退路を断ち、23年4月の芦屋市議選に向けて全力集中することになった。

昨年9月からは毎日、朝7時から8時半まで阪神・打出駅南(打出商店街)でのスタンディング(朝立ち)、JR芦屋駅(朝立ち)、JR芦屋駅前での夕立ちと、48歳という若さでこなしてきた。加えて、要コウタと言えは、自転車にノボリ。「要は福祉です」が文字通りの旗印だ。



昨年9月から連日の朝立ちや夕立ちで手応えをしっかりと感じ始めた要コウタさん

なぜコウタは「福祉」を要とするのか。「私は23年間、福祉職場で働いてきました。高齢化社会に急速に向かう中、自分の経験を通して、新たなステージで働きたいと考えているようになりました。これがコウタのベ

2021年7月「要コウタとみんなの会」キックオフ集会所を皮切りに、要コウタさん(以下、コウタ)は走り出した。22年6月には23年間働

たのである。東京到着後、大手町での全国農協本部前での抗議行動や、新宿での全農本社での団交の際、玄関

小林るみ子・第3回サポーターズ集会 3月11日(土)14時 原田の森ギャラリー・401号室 中川智子さん(前・宝塚市長)来援! よしだ秀夫事務所開き 3月19日(日)10時 事務所 明石市魚住町清水1-37-2 ハリマビル2F

地域ユニオン あちこちあれこれ

東京ユニオンのH支部(東京都北区)は、2023年3月末で会社が解散するとして組合員16人

全員が解雇通知を受けた。東京ユニオンは親会社・南海化学(大阪市西区)の責任を追及すべく昨年未から計4回の「緊急大阪アクション」を展開。ユニオンあしやも、関西各地のユニオンと共にこの行動に延べ17人が参加し、2000年の全農食品関西分会の闘いの際に東京ユニオンから受けた「恩」を返す絶好の機会となった。

23年後の『恩返し』

この機会に改めてそのときの経緯を詳しく紹介したい。2000年初頭、工場閉鎖に伴う人員整理、つ

まり首切り攻撃に抗し、多くのパート女性労働者たちが結成して間もないユニオンあしやに結集、「小さな旗上げ」を行った。全農食品関西分会の

誕生であった。会社(西宮市)相手の団交や抗議行動を展開してもなかなか進展しない時に、当時、ひょうご工

前年10月に開催した「要コウタと福祉を語る会」には40人が集まり、コウタの活動を励まし、支援の強化を誓い合った。そして今、2月に入り、「ここにきて、通勤者や街のムードが変化してきた。毎朝、「苦勞さん」

連帯感を無言のうちに教えるものであった。この行動に参加した全農のある組合員は、「初めて私、お金に替えられないものがある」と述べていた。思っていたのが印象的だった。その後、状況は急展開し、まさに流れを変えることになった東京行動だったが、今回の東京ユニオンの大阪行動も流れを変える取り組みだったの

美味しく食べて体を動かし寒さを乗り切りましょう
毎月お届けしています。
●でかんしょ米 (小多田屋米穀店)
10キロ 5,300円 / 5キロ 2,650円 / 3キロ 1,590円
●ささや米 (耕しや/阪東農園)
10キロ 5,100円 / 5キロ 2,550円
(玄米10キロ 4,800円 / 5キロ 2,400円)
(有)ぴいふる
電話/ファックス 078 (531) 0135

# おんなの目

私の故郷の村は西側と南東側に、被差別部落があった。南東側は同じ校区で、小学生の時そこに住むA子ちゃんの家に宿題を届けに行った。雨上がりの午後で、A子ちゃんの家の前には、とてつもなく大きな水溜まりがあった。お父さんらしき人が出てきたが、スキンヘッドだったのでびっくりにした。今はよくあるヘアスタイルだが、50年前は僧侶か「反社」の舎弟のものだった。

ちとせちゃんもA子ちゃんと同じ村に住んでいた。彼女は、当時大人気のアイドル南沙織によく似た可愛い女の子だった。ちとせちゃんと私は誕生日が同じ8月だが、学校で夏休み中の8月生まれだけお誕生会がなかった。それで、ちとせちゃんのお母さんがお誕生会を開いてくれた。ちとせちゃんのお母さんと私の母は仲良しだった。母はいそいそと送り出してくれた。ちとせちゃんの家は外観も間取りもお洒落な家だった。設計されたのは建築家のお父さんで、口髭を置いた芸術家風の格好いい人だった。お昼ご飯を頂いた。フォークとナイフが置いてあって、戸惑う私に、お母さんがはっと気が付いて、お箸を出してくれた。ちとせちゃんは器用にフォークとナイフを使った。ご馳

走だった。私は食べ慣れたみそ汁と鯖の塩焼きがよかったのだが。それから、大きなグラスにワインをついでくれた。子どもがお酒を飲んで良いのかとためらったが、勧められて一口飲んだ。飲み干した。ぷはーと息をついて頬が赤らんだ。私はそんなちとせちゃんを嫌に思った。

## ちとせちゃん(仮名)

私の家には、寄合でお酒を飲んで帰ってくると怒鳴り散らし、物を投げつける恐ろしいオジイサンが居たから、酒を飲む人が怖くて大嫌いだ。翌年もお誕生会に誘われた。母から「行かないと差別する人と思われちゃうから、もう行かない」と言われたが、もう行かなかった。それから、長い時間が経つ中で、解放同盟をはじめた皆さんの尽力があった。村は変わった。

同和対策事業など公的資金もあって地域も変わった。田畑や水路の整備など、地続きの私の村にも恩恵があった。差別のせいで貧しくあるのなら、差別を無くすための経済的底上げは当然だと思う。息子が小学生の時、友達のお母さんがしじみみと話してくれた。「差別なんか受けたことないのに、住んでいる地域のせいでは差別を受けたことがある。まずかというアンケートが来るんや。そのアンケート見ると、あー、自分はそういう地域にお嫁に来たんやと思う」と。今はもう誰も気にしていない。差別というものは変なこだわりがあって、意味のない愚かしいことではない。まともでありたいと思う人の社会は差別などしない。今騒がれているLGBTQの差別もしかりだ。そして、差別が克服されたら、最初から差別など無かったように振舞ってはいけないと思う。どんな差別があったか、いろいろな運動があったと多くの人の努力があったという歴史を、克服の知恵として残さなければならぬと思う。もし再び差別が起こった時に備えるために。中学が別々になって、ちとせちゃんと会うことはなかった。今、A子ちゃんは地元で幸せな家庭を築き、仕事もバリバリやっている。ちとせちゃんもきっと素敵な女性に成長し、幸せに暮らしていることだろう。(大野)

## 新刊紹介 学習会のテキストに最適

「データブック2023」(労働問題研究委員会編集・いずみ橋書房新社発行)が今年も発刊されました。「データブック」は、働くものの賃金の変化をはじめ、働くものを取り巻く現状をさまざまなデータを図表化するなどして、「働くもの『いま』」を解説しています。また、「働くもの『これから』」として、今後の運動の課題や展望についても提起しています。A5判60ページでコンパクト。職場や地域でのやさしい学習会用のテキストとしても最適です。頒価は1部500円。ご購入の申し込みは新社会党兵庫県本部でも受け付けています。電話078・361・3613 ファックス078・361・3614

# データブック 2023



- データブック2023<目次>
- 発刊にあたって
1. 不安定雇用、低賃金のなかで働く労働者
  2. 一度も正社員になれない「氷河期世代」
  3. 昨年の民間平均賃金、コロナ前の水準に
  4. 正社員の初任給に「最低賃金が迫りつつある」異常事態
  5. ランク制改善へ力を合わせよう
  6. 男女賃金格差の開示義務(女性活躍推進法改正)
- 第2章 グローバル化と日本経済
1. 日本を取り巻く経済環境
  2. 日本経済の現況
  3. 冷戦後政治の総決算をはかる岸田文雄首相
- 第3章 富を労働者とその家族に取り戻そう!
1. 世界の、日本の、格差の実態
  2. 富の偏在をただす政治を目指そう!
  3. 新たな財源確保も提起されている
  4. 巨額の富はあるのに社会保障は後退するだけ
- 第4章 地方自治
1. 新型コロナウイルスによる保健所職場の実態-兵庫県職労
  2. 変わらない会計年度任用職員の違法状態
  3. デジタル化と地方自治
- 第5章 子どもの貧困と教育
1. 子どもの権利保障としての無償化
  2. コロナ禍の下での教育
- 第6章 農林水産業を取り巻く環境
1. 高まる食料安全保障への危機感
  2. 食の安全保障は量も質も
  3. 農業の流れは温暖化防止、生態系保護、飢饉撲滅
  4. 地域循環農業で食育推進、食料自給率向上
- 第7章 今こそ非武装・中立の日本を
1. いかなる理由があっても武力による威嚇行使は慎まなければならない
  2. 増える一方の世界の軍事費
  3. 核兵器禁止の運動を強めよう
  4. 大転換する日本の防衛政策・戦略
  5. 要塞化される琉球弧

**【取扱規程】**  
 1冊～4冊 @500円×部数と送料  
 5冊～9冊 @500円×部数(送料無し)  
 10冊～ @400円×部数(送料無し)

**【注文方法】**  
 取扱団体(個人)、送付先住所、連絡先(電話またはFAX、メールアドレス)と注文部数を明記して  
 FAX 06-6412-2651  
 078-861-6566 または  
 Eメール kimioama@yahoo.co.jp  
 担当:津野までご連絡ください。  
 なお、代金は同封の郵便振替用紙で振り込んでください。

編集:労働問題研究委員会  
 発行:いずみ橋書房新社  
 101-0021 東京都千代田区外神田6-10-11 寺澤ビル2階

## レジエントとバタフライ

日本の歴史上、最も有名な人物の一人である織田信長とその妻・濃姫を木村拓哉と綾瀬はるかがか演じたことで話題の作品である。

い水と油の関係。ある日、濃姫の祖国で内乱が起り父が命を落とす。自身の存在意義を失い自害しようとする彼女に、再び生きる意味と場所を与えたのは、他でもない信長だった。そんな信長もまた、大軍に攻められ窮地に立たされた時、濃姫にだけは弱音を吐く。自暴自棄になる彼を濃姫は鼓舞し、2人は桶狭間の激戦を奇跡的に勝ち抜く。これをきっかけに芽生えた絆はさらに強くなり、いつしか天下統一が2人の夢となる。しかし、戦に次ぐ戦の中で、信長は非情な「魔王」へと変貌してゆく。本当の信長を知る濃姫は、引き止めようと心を砕くが、運命は容赦なく「本能寺」へと向かっていく。「魔王」と恐れられた信長と、「蝶」のように自由を求めた濃姫。激動の30年を共に駆け抜けた2人が見えていた「本当の夢」とは……。



織田信長が主人公という点で、戦国時代ならではの派手な合戦シーンの連続を想像されるかも

最後の本能寺の変以外は、ほぼ出てこない。この映画は、信長と濃姫の関係を夫婦としてだけでなく、

情をいねいに描いている。特に濃姫は美貌だけでなく、信長をしのぐほどの武芸に長けた圧倒的な身体能力を見せつける。また、自らの信念に基づき、時には信長に対して苦言を呈する等、参謀的な存在でもある。その一方で、豊臣秀吉や徳川家康、柴田勝家、明智光秀といった名だたる武将が登場するシーンは、それほど多くない。あくまでも物語の中心は信長と濃姫なのである。

そして、物語はクライマックスである本能寺の変へ向かっていくのだが、その過程で安土城にて徳川家康の饗応役を担った明智光秀が信長から叱責されるといふ、かの有名なシーンが登場する。ちなみに徳川家康でさえこのシーンにしか登場しない。史実ではその後、光秀による謀反が起きるわけだが、その動機について劇中では新たな説を取り入れ、独自の解釈を加えている。

2時間半を超える長尺で、本能寺にて信長が襲撃にあい、追いつめられた後の奇想天外なラストシーンも含め、賛否は分かれるだろう。私自身も評価が難しいが、独自の斬新な内容が、この作品の個性であるという点は評価したい。

## シネマランド

### 信長と濃姫の夫婦の絆を中心に描く

監督 大友啓史 / 2023年/日本/168分